

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 アブソリューション・レーザー	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.460	△RG 0.036	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：アブソリューション・レーザー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

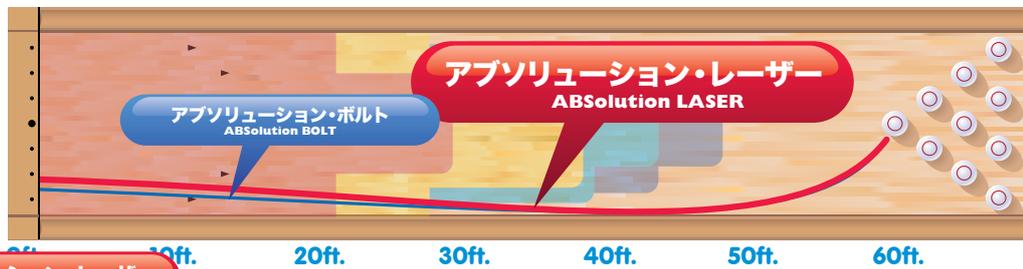
比較対照ボール：アブソリューション・ボルト

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

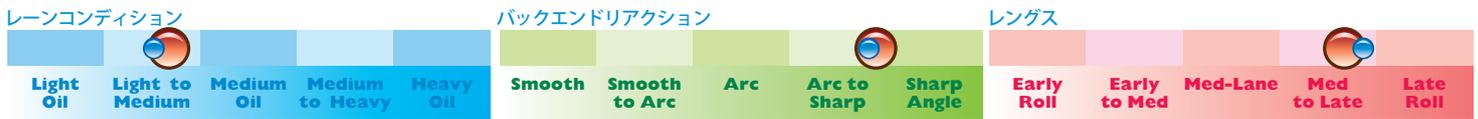
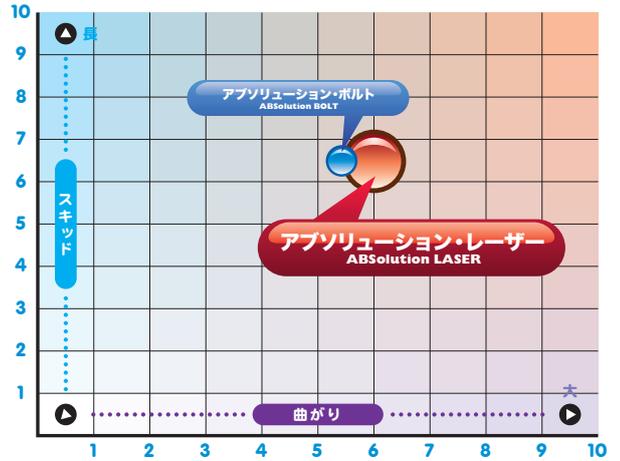
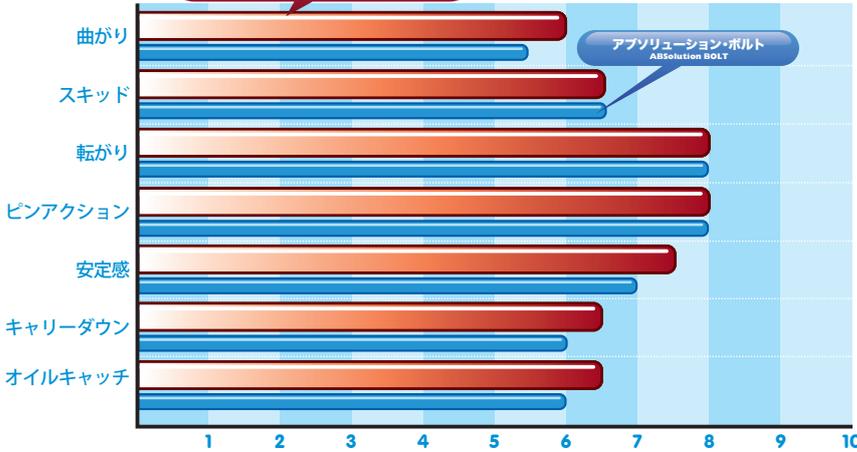
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ

アブソリューション・レーザー
ABSOLUTION LASER



ボールの評価

キャッチが先行するカバーストックが大半を占める中、走りとシャープなバックエンドリアクションを魅せるアブソリューションシリーズに期待し、発売するたび候補の一つとして考えている方も多いでしょう。

今回のアブソリューションレーザーはただ走るだけのボールではなく、トーナメントの後半やウッドベースのコンディションで見られるブレイクダウンしたフロントエリアをスムーズに越え、ポケットに対する入射角を取る、ベースボールに相当する「レーザービーム」的、ブレない直線的な走りや攻撃的な入射角に対しての鋭さを表したイメージをネーミングに託しています。

このアブソリューションレーザーを仕上げるにあたり私たちが拘ったのはスキッドとバックエンドのバランスでした。バックエンドの摩擦を強くしようと相じてスキッド感は短くなる傾向を見せ、スキッド感を重視するとキャリーダウンの影響度が顕著にでてリアクションそのものが弱くなります。それを打破するためにスキッド系リアクティブから徐々に添加物の配合比を変え、このリアクティブに辿り着きました。もう一つの取り組みはコアにセラミックボールを内蔵させた新しいコアを採用して、ネジレをリアクションへと変換しています。

私の中ではこのアブソリューションシリーズはコンディションが遅くなってからの信用度は非常に高く、どのメーカーでもこの領域に特化した性能を打ち出しているところはなく、すでにドライ用の代名詞としてアブソリューションシリーズは君臨しています。今までその領域に拘ってきたからこそできるノウハウを今回もこのレーザーに取り入れ、最終兵器となるよう魂を込めて作り上げました。走り系ボールの性能を求めているのと同時にピンアクションまで期待したいという方は、このアブソリューションレーザーを見逃してはいけません。

特記事項

今回のレーザーは走りやバックエンドのキレに拘りをもって作り直しました。トーナメントの最終シフトや夜のリーグ等で是非お使いください。